

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	旭もえぎ			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 20日 ~ 2025年 11月 29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数)	31
○従業者評価実施期間	2025年 11月 20日 ~ 2025年 11月 29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して過ごせる環境づくりができている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性に応じて、グループ分けをしたり、活動スペースを調整する配慮を行っている。 視覚的な見通し（スケジュール、絵カードなど）を活用し、不安を軽減できるよう工夫している。 子どもの声に耳を傾け、子どもの目線になり一緒に考えることを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して過ごせる静かなスペースや落ち着ける場所の拡充を図り、児童の特性に応じた環境調整を図りたい。 環境づくりの評価を定期的に行い、子ども自身からの意見、反応も見ながら改善する仕組みを作りたい。
2	職員間の連携がよく、支援方針の共有ができている。	<ul style="list-style-type: none"> 支援終了後、毎日ミーティングを実施し、児童の様子や支援で上手くいったこと、行き詰まつことなどを職員間で共有している。共有したことを日々検証し支援の現場にて実行するサイクルが確立されている。ミーティングの記録を取り当日出勤していない職員にも情報を共有することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰が支援しても一貫した対応ができるよう、体制を強化したい。 施設の考え方だけではなく、客観的な視点や外部の知見も共有し、より良い質の高い支援につなげていきたい。
3	子どもの特性に合わせた支援やプログラムを提供できている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性に応じたプログラムを小グループに分けて細やかに提供している。 無理のないステップで成功体験を得られるように工夫したプログラムを提供している。 子どもの興味やチャレンジしたいことに配慮したプログラムを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 成功体験とチャレンジのバランスを調整し、意欲と自己肯定感を育てる。 ケア記録を振り返りに活用し、検証しながらプログラムの質を向上させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域支援機関との連携が十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の業務が多く、関係機関との連携や情報交換の時間確保が難しい。 地域の支援資源（相談支援、療育センター、こども家庭支援課など）についての理解が職員間で統一されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援マップを作成し、職員全体にも周知していく。 参加可能な範囲で地域の研修会などに参加し連携を強化する。 福祉事業の中での放課後等デイサービスの役割の理解を深められるようにする。
2	緊急時対応の周知が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> 送迎、事故対応、ヒヤリハット、災害BCPなど、内容が多岐に渡り、全職員がすべてを理解することが難しい。 実際の訓練やシミュレーションの機会が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの定期的な確認とシミュレーション研修を行い、実践的な判断力を育てる。理解の均一化を図り誰が対応しても同じ基準で判断できるようにする。 緊急時対応の取り組みを保護者へ発信し周知していく。
3	保護者向けの研修や保護者会の開催が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> 時間的余裕がなく計画が進んでいない。 保護者の参加しやすい時間帯やどのような形式が良いかを十分検討できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 年に1~2回を目標に、保護者が気軽に集い交流できる機会を作っていく。